

読者の欄 

「ちょっと気になる天文用語」への追加

佐藤明達

会誌「天文教育」Vol.14, No.6 (Nov. 2002) に掲載された、福江純氏による上記の表題の文章を面白く読んだ。それについて付加的なことを少しく述べてみたい。なお英語の語源は英和辞典にもあるが、ここでは寺沢芳雄編「英語語源辞典」(研究社1997)によった。

- (1) astronomy は astro- (ギリシア語 aster、英語 star) と -nomy (ギリシア語 nomos, custom, law) の連結語である。従って「星の法則」を意味する。
- (2) 英語 star はギリシア語 aster、ラテン語 stella に由来する。星座 constellation は晚期ラテン語 constellatio (group of stars 星の集まり) 及び constellare (to stud with stars 星をちりばめた) に由来する。占星術では星位、つまり人の誕生時における星の配置を意味した。
- (3) meteor はギリシア語 meteoros (raised up, Clofty) が語源で、「高く上がった」を意味し、「流星」の他に「大気現象」の意がある。後者はもとは次のように修辭語が付いて区別されていた。例えば
airy meteor は風
watery meteor は雨、雪、霰、露など
luminous meteor はオーロラ、虹など
fiery meteor は稲妻、流星など
従って meteorology は「流星学」でなく「気象学」となる。流星は大気中の現象ではあるが、本体が宇宙起源なので、現在は天文学に編入されている。またオーロラは地球電磁気学や宇宙空間物理学の研究対象である。なお流れ星は英語では shooting star (勢いよく飛ぶ星) 又は falling star (落下星)、フランス語では étoile filante (糸を引く星) という。

アリストテレスの著書 Meteorologica は

「気象論」と訳されており、流星現象の記述も含む。デカルト著「方法叙説」の詳しい表題は「自分の理性を正しく導き、もろもろの学問において真理を探究するための方法の叙説。加えて、この方法の試論たる、屈折光学、気象学 (les Météores) 並びに幾何学」であるが、「方法叙説」には普通、試論は省かれている。

- (4) universe はラテン語の universus (combined into one, whole) から来ており、「一つにまとまる」とか「全体」を表わす。似た語の university は中期ラテン語の universitas を語源とし、もとは the society (of teachers and students) つまり教師と学生との組合を意味した。
- (5) galaxy はギリシア語 galaxias (kuklos) つまり milky (cycle) 「ミルクの輪」「天の川」である。「世界大百科事典」(平凡社1965)には
ガラクトース；……乳糖(ラクトース lactose) はガラクトースとブドウ糖(D-グルコース) 1分子ずつの化合物である。……とある。gala-, galakt- はギリシア語でミルクの意で、lact- はラテン語で同じくミルクを表わす。
- (6) planet の語源はギリシア語 planetes つまり wanderer (放浪者) である。長崎のオランダ通詞本木良永は、著書「太陽窮理了解説」(1792)でオランダ語ドワールステル dwaalstar を「惑星(まどひぼし)」と訳した。司馬江漢も「和蘭通舶」(1805)で「惑星」の語を使っている。一方吉雄南臯は「遠西観象図説」(1823)で「游星」と書いた。これらが古い用例であろう。
- (7) planetarium の語尾 -arium (複数 -aria)

は「…に関連する物」「…の場所」などの意の接尾語である。プラネタリウムという語の起源は古く、古代ギリシアのアルキメデスがプラネタリウムを作ったという記録がある。しかし構造については分かっていない。コペルニクス以後、プラネタリウム（太陽系儀）はヨーロッパ各地で作られた。1682年にはホイヘンスが製作しているし、オランダのフラネッケルにはエイシンガ・プラネタリウム（1774～81年作）、ミュンヘンのドイツ博物館にはコペルニクス宇宙系のプラネタリウムがある。

シーボルトが高橋景保に贈った品物の中にプラネタリウムがあり、これは「日月諸星地球迄の運行を明かに見易き様にしたる器にて御座候」とある（呉秀三著

「シーボルト先生 I」平凡社東洋文庫 1967 p.309）。

1936年大阪市がドイツのカール・ツァイス社からドーム投影式プラネタリウムを購入した時、斡旋の労をとった東亜天文学会会長山本一清氏がこれを「天象儀」と命名したと言われる。

(8) 火星の中国名「熒惑」は「けいこく」とも読む（野尻抱影著「日本星名辞典」東京堂出版 1973 p.206）。「こく」は漢音である。「熒」にも「まどわす」という意味がある。

(Dec. 10. 2002)

「あっ、北斗七星がない！月がない！」

佐藤 健

天文教育 2002年9月号 87ページの上記の題の私の投書に対して、西村一洋様に11月号51ページで早速ご反応頂きまして、有り難う御座いました。北斗七星が夕方最も低くなって観察に不適當な季節に「北斗七星の動きを観察しなさい」という宿題を出されて、見つけれなくて生徒や保護者が困っているという相談は、私が広島市こども文化科学館に勤務していた18年間に私1人が受けただけでも、かなりの回数ありました。記録してないので、実数は言えませんが。

月が夕方出ていない日に「月の観察をしなさい」という宿題で困ったという相談は、北斗七星の場合よりは少なかったですが、これも

何度もありました。私1人の経験だけでもこのような状況ですから、こんな宿題を出す先生はそんなに少なくはないのではないのでしょうか。先生の数が多いですから、先生全体に対するこのような先生のパーセントは小さいでしょうが。

当会の会員には教師志望の学生を教育しておられる方や、教師の研修会で講師を務める機会のある方が多いと思いますので、上記のような現実があることを頭の隅に置いておいて頂ければ、というのが私の投書の趣旨でした。

皮肉っぽい書き方をしましたので、誤解を招いた点があるかもしれません。